

料理本が愛読書だった学生時代
就職の一方で料理家への夢も

料理コラムニスト山本ゆりさんの人気の秘密は、なんといっても、身近な材料でおいしく簡単に作れる料理レシピにありま。調味料も塩、砂糖、醤油などなじみのあるものばかりで、初心者も気軽に作ることが出来ます。今年最新刊が出た山本さんの著書『syunkonカフェごはん』シリーズは、10冊累計で700万部を超えるベストセラーになるなど、人気はとどまるどころを知りません。

「料理は子どものころから大好きで、愛読書といえば料理本でした。100冊以上は読みましたね。でも、実際に1冊の本から作ることができた料理って、実は1〜2品なんです。珍しい食材や高級な食材を使ったり、作り方も難しいことが多い、わが家ではなかなか作れなくて。で、思いついたのが代用品で作ること。たと

えば、ナンプラーの代わりに醤油を使う、みたいな。そのとき、こんなふうに家にある食材や調味料で、簡単に載っているレシピが全部作れる料理本があったらいいなと思っていました。」

その後、高校、大学と進学した山本さんは、やがて就活の時期を迎え、「将来自分は何かしたいんだろう」と考えたとき、「そうだ、レシピ本だ!」と思います。しかし、「就活」の流れに乗らないという度胸はさすがになく、広告代理店に就職。「将来、自分でどんな仕事をやるにしても、一回経験しておけば、きっと役立つだろうと、一番大変そうな広告の飛び込み営業を希望しました。今思えば本当、チャレンジでした(笑)」。

一方、料理本への思いも捨てがたく、巷ではやっていたブログに目をつけ、「含み笑いのカフェごはん『syunkon』」という料理ブログをスタート。

「ブログがランキング上位に入ると、レ

インタビュー

山本ゆりさん

料理コラムニスト

どこにでもある材料で簡単に作れる料理を
ブログで紹介し始めて13年という
料理コラムニストの山本ゆりさん。
関西弁を交えた楽しい文章もありあって、
多くの人々から絶大な人気を誇っています。
ブログの更新、本の出版、CM出演、子育てと、超多忙な山本さんに
料理へのこだわりや私生活のことなど語ってもらいました。

料理ブログがきっかけで
「ふざけた料理本を作りたい」
という夢が実現

シビが本になって出版されていく、という流れが当時できつつあったので、ブログをやっていたらいつか本を出せるかもしれないなあ、と思ったんです。結構甘い考えです(笑)。とにかく料理本を出すことが大きな目標になりました。

こうして広告営業と料理ブログという二足の草鞋を履いて新社会人生活をスタートさせた山本さん。しかし飛び込み営業はハードで、怒鳴られることも多く、落ち込むこともしょっちゅうだったとか。

「でも、それもいい経験でした。お客様に無茶苦茶を言われたときも、上司に『あなたの営業スタイルに問題があったんじゃないか』と諭されることも多く、失敗をすぐに他人のせいせず、まず自分の責

02 インタビュー

06 教えて! 知るぽると
保険のキホン
必要な保障を見極める!

11 マンガ「わたしはダメサレナイ!!」
「簡単に稼げる」、「返金保証」などの
おいしい話で勧誘!
転売ビジネスの契約トラブルが急増中

14 連載「江戸時代に学ぶお金と暮らし」
第1回 庶民の金融リテラシーを
のぞいてみよう
高槻泰郎
神戸大学経済経営研究所・准教授

17 そこが知りたいくらしの金融知識
住宅購入時のサポート制度と
コロナ禍で変わる住宅選び

22 誌上セミナー
知っておきたい! 共働き夫婦のお金の話

26 知るぽるとNEWS
「知るぽると」WEBサイト
お役立ちコンテンツのご紹介

28 「知るぽると」からのお知らせ
『先生のための金融教育セミナー』
オンライン開催のご案内

29 まなびや訪問
大阪府豊能町立光風台小学校

30 おたよりコーナー
漢字矢印パズル

31 都道府県金融広報委員会一覧
編集後記

任を考える癖ができました。とにかく上司、先輩、お客様に恵まれた会社で。あのとき教えてもらったことが今の仕事に

も生きていると思います。ただ、時代がよくなくて、ちょうどリーマンショックのあたりで会社の規模も半分ぐらいになり、

お給料も減って、ボーナスも寸志。収入としては予定よりも少なかったです。一方、スタート当時は数十人程度だった

料理ブログの読者は日を追うごとに増えていき、1年後には、料理ブログランキングで10位以内に入るといって躍進ぶり。人

「家にある食材や調味料だけでおいしく作れる料理」が 幼いころからの理想



気を獲得した裏には、簡単な料理というコンセプトのほかに、もう一つ、山本さんならではのこだわりがありました。

「たくさん料理本を見てきて『そういえば、ふざけた料理本ってないなあ』と気づいて。もし遊びや笑いの要素の入った料理本があったら、面白いんじゃないかなと思っただけです。私は料理もそんな上手じゃないですし、先生の立場でもないの、読み物として楽しめる料理本が作れるよう、ブログの文章もゆるい雰囲気を書いていました。」

会社員時代に経験した 1000円を稼ぐ苦労が “金銭感覚”の基準になった



理本があったら、面白いんじゃないかなと思っただけです。私は料理もそんな上手じゃないですし、先生の立場でもないの、読み物として楽しめる料理本が作れるよう、ブログの文章もゆるい雰囲気を書いていました。」

案の定、簡単に作れて文章が面白い料理本は出版社の目に留まり、「本を出さないか」との声がかりました。まさに読みどおり！そして2010年、ついに初の料理本『syunkonカフェ』は出版する話がまとまりました。その後の決断は早く、翌年1月に会社を辞表を出すと同時に結婚。春に本の出版、初夏には出産と、人生の転機でんこ盛りの1年となるなか、不安はなかったのでしょうか。

「もちろん、ただか本を1冊出したぐらいで、その先の目途なんて全然立ってはいなかったですけど（笑）、ブログの読者は確実に増えていたし、少しずつですが、雑誌の仕事などももらえていたので、なんとかやれるだろうと。実際、ありがたいことに、その後はコンスタントにお仕事がいっぱいだったし、そこは運がよかったと思います。」

不器用な人も 安心して作れるレシピが 多くの人の共感を得た

本は1冊出したものの、やはり肝となるのはブログです。人気を不動のものにするには、なるべく毎日更新することが不可欠。山本さんもこの鉄則を守り、ほぼ毎日更新し、新しい料理をアップしました。

料理は独学で、読みこんできた料理本を参考にしながらレシピを考え、近所のスーパーで一番安い食材と調味料を買い、自宅のキッチンで何度も試作を重ねます。できた料理は自分で撮影して、時間があるときに画像を取りこみ、加工し、アップ。そのあと2時間ほどかけてレシピの文章を書くほか、日によってレシピ以外のおもしろネタ（家族の話や日常の困ったことなど）も書きますが、これには5〜6時間かかることも。つまり1本のブログにはかなりの時間と労力が必要です。

そんな山本さんのブログの魅力は、どんなところにあるのでしょうか。

「料理って、できない人って多いと思うんです。ただ、器用か不器用かというのはあって、それに関していうと、私は確実に不器用で。細かい作業はできないし、難しい料理はなかなかうまく作れない。だから、私が紹介する料理は、不器用でも、調味料を量ってさえいけば完成する、簡単なものばかりです。私が作れるぐらいだから誰でも作れるみたいな（笑）。不器用で面倒くさがりな人間が作った本、というのが、ある意味、画期的だったのかもしれない。たとえば、材料に『ニンニク1片』と書いてあっても、その横に『入れ

なくても大丈夫」と添えたり、作り方がややこしい部分には「こうすればもっと簡単」とか「こうすると失敗します」など先回りして書ける。それがよかったのかなと思います」。

昨今はコロナ禍のなか自炊、外食、あるいはお惣菜を買って自宅で食べる「中食」など、食事のあり方が注目されています。

「私はお惣菜、全然ありだと思っています。私も土日の夕飯には、スーパーのお惣菜を買いますから。唐揚げやとんかつを買って、レンジでチンして、野菜を切って添えるだけとか、お刺身を買ってそのままテーブルに並べるとか。そこに私はまったく罪恶感はありません。そもそも私は忙しい日は作らなくてもいい派」です。でも、お惣菜を買うことに罪恶感がある人や、『お惣菜だと栄養面や経済的な面で不安だ』と思うときもある。そういうときに、選択肢の一つとして時短レシピがあれば、少し気持ちが楽になるんじゃないかなと。食事は毎日のことなので、ストレスにならないよう、臨機応変に向き合えたらいいなと思います」。

会社員時代にお金を稼ぐことの大変さを知ったのは私の財産

本とブログは互いに相乗効果をもたらす、山本さんの認知度は次第にアップ。1冊目の売行きも好調だったことから

2012年に第2弾、翌年に第3弾が発売され、雑誌やテレビ番組でも取り上げられ、見事、山本さんは人気料理家の仲間入りを果たしました。もちろん、比例して収入もアップしましたが、生活が派手になることはなかったといいます。

「基本、貧乏性なんです。それは単純に、子どものころ、家にお金がありませんから、自然とおこづかいの範囲内でモノを買う習慣が身についたんだと思います。もう一つ、会社員時代の話なんですが、新規のお客様と契約した際のインセンティブ（成績に応じた報奨金）が1000円だったんです。何度も訪問して、あれこれ言われて、汗水たらして、1000円稼ぐのって、こんなに大変なんだって。でもそこが金銭感覚の基準になったのは、すごくよかったです。今どんな金額のお仕事でも不満がないですし、金額に関わらず一生懸命取り組みむという姿勢が身につきました」。

そんな山本さんには、お金について、小学生のころから続く決め事があるといいます。

「実はこれは母の教えなんです。お金は回るものだから寄付をしよう、というのが習わしで、習慣的に寄付をしていたんです。そんな母を見ていたので、私と姉もときどきおこづかいから少しずつ寄付をしていました。1冊目の本が出版されたとき、感謝の気持ちも込めて母にお金を渡したら、そのほとんどを寄付していま

したね。私も、syunkonシリーズ以外の料理本については、全額寄付しました。自分は好きなことをやってお金をいただいているので、社会に対して自分ができるとはしたいし、そういうところにお金を使える人でありたいと思っています。でも本当はこういうこと、言わないほうがいいんですよね。まだまだ人間できてないです（笑）」。

素敵なお話をしてくれたあと、しつかり笑いをとるところが、なんともチャーミングな山本さん。

常識にとらわれずにより良いものを追求したい

人生100年時代といわれるなか、今後の夢についてうかがうと、それをなかなか考えられないのが今の悩みの種といいます。

「目の前のことに必死なまま、毎日を過ごしてしまっているのが現状ですね。今はまず、子どもたち3人をちゃんと成人まで見届けて、そのなかでやりたいことが見つかったらいいなあ。だから、そうなったとき、すぐに動きだせるよう、日ごろから体力作りに励んだり本を読んだりして幅を広げておこうと思っています」。

ただ、料理本については、今までの常識にとらわれずにより良いものを追求していきたいという思いがあるといいます。

「たとえば、料理本の多くが、材料を分

量の多い順に書いていくんですが、作る人からすると、使う順で書いてあったほうがスムーズだし、まな板もいちいち洗わなくて済みます。なので、去年出版した私の本では、書き方の順番を全部、入れ替えただけ、なんだか不便」という部分を、少しずつ変えていくのが、今の目標ですね。料理本ももう11冊出しましたが、シリーズを重ねるごとにだんだんよくなっていくので、『どれを買ったらいいですか』と聞かれたら迷わず最新刊が一番いいとおすすめています」。

食を通じて人を笑顔にする。そんな山本さんの夢が詰まった新しいレシピが、これから楽しみです。

プロフィール



山本ゆり
やまもと・ゆり

大阪府出身。結婚前は広告代理店の営業。現在は3児の母。ブログ「含み笑いのカフェごはん」[syunkon]が人気を博し、著書『syunkonカフェごはん』シリーズ（宝島社刊）は10冊累計で700万部を超えるベストセラーに。ツイッターのフォロワー数は100万人、インスタグラムも100万人を超える。2021年3月には最新のエッセイ集『おしゃべりな人見知り』を刊行。